

令和2年7月



スクールカウンセラー 中野隆治



「学問のすすめ」



みなさんは福澤諭吉ゆきちという人を知っていますか。明治時代の思想家・教育者で、一万円札の肖像画としても有名ですが、大学を創つくったり(慶應義塾大学)、「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」といった言葉でも知られている人物です。その有名な言葉が冒頭に登場する本が『学問のすすめ』なのですが、明治の人々に強い影響を与えたことで知られています。本の中で、福澤は、人生を商売しょうばいにたとえて、こう説明しています。以下、現代語訳を載せておきます。

人生という商売は、十歳前後の人間らしい心ができた時からはじめたものであるから、普段から知性や人格、事業の帳簿ちやうぼを精密につけて、損失が出ないように心がけていなければならない。

人生を商売にたとえた着想の突飛とつびさにも驚きましたが、普段から自分自身の知性、人格、行動などを振り返って、損害が出ないようにしなければならないと言っている点にも感心させられました。

また、彼は、こうも説きます。商売と同じように、人生も棚卸たなおろしをしなければならないと。

商売の状態を明らかにして、今後の見通しを立てるものは、帳簿の決算だ。自分自身の有様ありさまを明らかにして、今後の方針を立てるものは、知性と徳と仕事の棚卸しなのだ。

棚卸しとは、商売で言う在庫整理、総決算のことです。福澤は、生きる上で大事なことは、時々、商店や会社がそうするように、ころあ頃合いの時に、人生の棚卸しをしなければならないと説きます。自分を振り返り、将来を考えるとということでしょうか。これまで何をやってきて、今何をしているのか、そして将来何をすればいいのかなどを考える必要性を言っているのでしょう。

人生を商売に見立てたところが、実学じつがく(世の中に生きる学問)を推進しようとした福澤らしいところだと思います。普段から、人生の帳簿を付けて、知性や人格を磨き、損失がないようにしなければならないと説くのです。

人生は、青年期に至って、大きな損失が出ることも考えられます。いろいろな波乱があるかもしれないのです。同時に、人との出会いや学問をすることで、大きな利益を生むこともあります。学問をすることは、単に受験勉強をするだけでなく、人間としての自分を磨き上げることに役立つということなのでしょう。学問をすることで、ここぞという時の判断力もつくと福澤は言っています。コロナ禍から抜けようとしている今、どう生きるべきか、どう向かうべきかのヒントは、『学問のすすめ』の中に詰まっているように思います。勉強をすることが、これからの自分にどんな影響を及ぼすのか、時々そんなことを考えてみてはどうでしょうか。そして、時々、自分自身を棚卸して、前進してほしいと思います。